

農業を職業に!

先輩農業者に学ぶ

みやぎの就農事例集

最初の一歩はここから



発行：公益社団法人 みやぎ農業振興公社（宮城県青年農業者等育成センター）

〒981-0914 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17（宮城県仙台合同庁舎9階）

TEL: 022-275-9192 FAX: 022-275-9195

2019年3月作成

宮城県新規就農相談センター

農業を職業に!

農のあり方は様々。

- ① 独立就農を目指す人
- ② 農業法人に就農する人
- ③ 農的暮らしや自給自足的農業を目指す人 など……。

「農業をやりたい!」と思ったら、まずは、自分にあった農業スタイルを確認しましょう。

農業を職業とし、「独立就農」することは、「起業」することと同じです。

まず、独立を目指す農業業界のことを、栽培のみならず流通や販売まで入念に調べ、それを基に計画を立てて、経営ビジョンを明確にしなくてはなりません。

そして、技術や資格を取得して、準備した資金で農地や必要な施設、機械、資材等をそろえ、事業開始となります。この際、独立後に黒字経営となるまでの生活資金も必要となります。

また「起業」には、リスクがつきものです。「独立就農」には、リスクを考慮した準備に加え、経営者としての強い意志と決断力が求められます。

「独立就農」「農業法人に就農」……それぞれの思い。

ここに掲載されました農業者の方々の就農までの経緯と農業に対する思いやメッセージが、農業を志す皆様の参考になれば幸いです。

最後に、このパンフレットを発行するにあたり、ご協力いただきました農業者の皆様に厚く御礼申し上げます。

2019年3月

公益社団法人みやぎ農業振興公社
理事長 寺田 守彦

事例紹介者マップ



目次

I 独立自営就農

- ① 黒川郡大衡村 國府 雄人 1
- ② 加美郡加美町 田原 雅仁 3
- ③ 柴田郡川崎町 丹野 裕介 5
- ④ 岩沼市 郡司 美由紀 7
- ⑤ 遠田郡美里町 ブシャン・アケボノ 9
- ⑥ 仙台市太白区 渡辺 重貴 11
- ⑦ 仙台市宮城野区 佐藤 好宣 13
- ⑧ 柴田郡村田町 中山 建 15
- ⑨ 石巻市 亀山 晴央 17

II 農業法人に就農

- ⑩ 大崎市 有限会社マルセンファーム
阿部 綜広 19
- ⑪ 栗原市 農事組合法人 iファーム
熊谷 心 21
- ⑫ 仙台市若林区 株式会社舞台ファーム
高橋 渉 23



プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市（非農家出身）
- 就農時期：2014年4月（当時28歳）
- 就農前の職業等：小売業、青果業界勤務
- 家族構成：本人、父、母

1 就農の動機

以前から起業に興味があり、震災を機に大学で専攻していた「農業」に注目しました。高齢化が他業種より進んでおり、非農家出身の自分にもチャンスがあるのではないかと考えたからです。また就農前の職種の知識や経験も活かせると思いました。

2 就農準備

① 決意した時期・きっかけ

震災の翌年から少しずつ情報を集めて、その後、農業改良普及センターへ相談に行き、具体的な計画を作成して、就農を決意しました。

② 研修

普及センターから仙台市若林区の農家を紹介して頂き、研修をスタート。多品目の野菜栽培と出荷方法（市場出荷と直売）について勉強しました。

研修には、農業次世代人材投資事業・準備型（旧青年就農給付金）と就農支援資金を活用しました。



③ 資金・農地・住宅

資金は、借入れ500万円＋自己資金500万円の約1,000万円で、就農時に約700万円を投資して、残りは生活費にしました。

研修期間中、研修先の仙台市を中心に農地を探しましたが、なかなか見つからず難航しました。しかし、父の伝手で大衡村にまとまった農地を借り受けて、就農することが出来ました。面積が小さく、飛び地になりやすい仙台地区よりも1ヶ所の畑で作業ができる現在の場所が良かったと思っています。

住宅は仙台市泉区の実家で、大衡村の圃場まで約30分の通勤農業です。

3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- 露地畑 60a、ハウス3棟（うち1棟は調整室や倉庫として使用）
- ナス、ピーマン、オクラ、ネギ、レタス、玉ネギなど約20品目を栽培

② 主な保有施設・機械

- ビニールハウス3棟 ● トラクター1台 ● 管理機2台 ● 冷蔵庫1台

③ 労働力

本人のみ

④ 販売先

スーパーマーケット

現在、出荷先として登録をしているのは、スーパーなどの産直コーナー8ヶ所ですが、年間を通じて出荷しているのは4ヶ所ほど。直売は時期によって値崩れを起こす事があるので、あまり狭い範囲で出荷せず、通勤経路にあるスーパー（大衡村、大和町、富谷市、仙台市）にバランス良く出荷するようにしています。



⑤ 特徴

基本的には、ひとりで作業するため、慣行農法で効率の良さを優先しています。

現在は、農法や味、作目にこだわるより、見栄えの良さや大きさの均一化に重点をおいて栽培を行っています。コンスタントに栽培できる技術が身につけてから、味にもこだわっていきたいと考えています。

とにかく収益を上げることを一番に考え、経営として成り立つ農業を目指しています。

4 経営を開始しての感想

就農した場所と研修先が離れていて、土質や気候等の条件が違ったために栽培が難しく、慣れるまでに1～2年かかりました。

経営に関しては、農作業だけではなく販売実績、経営分析などを全部自分で考え、その結果がすぐに出るので、非常に面白いです。サラリーマンでは、自分の1日の仕事がいくらの価値なのかを知ることは、なかなか難しいですから。

今後、長期的な経営として軌道に乗るかはわかりませんが、現段階では、大赤字のために借金で辞めるという事はなくなったと思います。

もし、農業次世代人材投資事業（経営開始型）が終了した後、収入が伸びずに貯金が底をついたら、無理をして続けずに離農すると思いますが、そうならないように頑張りたいと思います。

具体的には圃場面積を増やし、ハウスの増設で増収を図りたいと考えています。

5 新規参入希望者に一言

自分をアピールすることが必要です！

農作業をする体力、軌道に乗るまでの資金、経営力など就農するためには多くの事が必要ですが、まずはちゃんと自分が農業で成功できると知ってもらえるように行政の方や研修先にアピールする事が重要です。

もちろん平等に見てもらえると思いますが、結局、行政も多くの就農希望者から、農業で生活できそうな人により良い農地や研修先を紹介するので、「就農希望者みんながライバル」の意識を持って臨んで下さい。

人生の軌跡





プロフィール

- 出身地：宮城県柴田郡川崎町
- 就農時期：2012年1月（当時29歳）
- 就農前の職業等：IT関連の会社に勤務
- 家族構成：本人、妻、祖父母、両親

1 就農の動機

四年生大学で経済学を学び、卒業の前に何がしたいか、何が出来るかを考えた時に「やっぱり農業がしたい！」と思いました。実家は兼業農家でしたが、専業農家として独立して農業を行うためには、社会経験が必要と考え、まずは会社員として就職し、スキルを磨いてから就農する道を選びました。もちろん、就農してから現在までこのスキルは生きています！

2 就農準備

① 決意した時期・きっかけ・地域決定の理由

四大卒業前・色々考えた結果・生まれ育ったところ……地元なので。

② 研修

大学卒業前に就農することは決めていましたが、就農前に一般社会で学ぶことの必要性を感じて、2年間会社員として働きました。その後、農業大学校に入学し、農業の基礎をみっちり2年間学びました。大学校卒業後、1年間の予定で県外の農家に研修に行きましたが、2ヶ月でリタイアして、帰ってきてしまいました（笑）。この時期は原油高だったために就農時期ではないと判断して、関東圏のIT関連会社に就職。仕事は楽しかったのですが、自分の人生ではないなと思いました。そのため、会社勤めをしながら約3年間、宮城と関東を行き来し、農業大学校の先生方に相談するなどして、栽培作目をネギに決めました。

また、役場と普及センターにも足を運び、地元の川崎町での独立就農に向け、準備を進めました。

③ 資金・農地・住宅

資金は、青年就農給付金（現：農業次世代人材投資事業）と父から借りて賄いました。また、川崎町は新規就農者に対して、150万円を上限に事業費の1/2以内を補助する制度があり、それを利用しました。現在、給付金の受給は終了し、36歳で認定農業者になりました。農地はすべて借地ですが、川崎町の地元だったために借りる苦労はありませんでした。住宅は、実家であり、家族と同居しています。



キクラゲ栽培の様子

3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- ネギ 60a ● キクラゲ 2,000 菌床

② 主な保有施設・機械

- トラクター 1台 ● ネギ調整機・管理機一式
- ハウス 3棟…2棟は父所有、1棟は自分所有（ネギの育苗、キクラゲ栽培・天日乾燥）

③ 労働力

本人のみ
収穫時には、2～3名にお手伝いをお願いしています。

④ 販売先

スーパーマーケット、直売所、川崎町の飲食店舗

⑤ 特徴

定番な作目も作りつつ、新たな作目にも挑戦しています。なるべく他と競合しないような作目をメインとするために奮闘中。

ネギの収穫は8月以降となるため、6月頃から収穫できるキクラゲの栽培を昨年からはじめました。販売は買いやすいようにレシピやポップをつけてアピールしています。



4 経営を開始しての感想

経営はとても大変！……が諦めなかったのが、今の自分がいます。「苦労は今だけだから」と思い、生きる毎日です。

販売先の信頼を得て取り引きを拡大したいと思い、法人化を検討しています。人材確保が可能か、雇用形態をどうするか等、経営全般について考えているところです。

ビジョンとしては、ネギ・キクラゲの生産拡大と夏場の収入確保のためにブルーベリーの摘み取り農園、他の野菜の栽培も考えています。

作るだけの時代は終わり、これからますます売り方が大事な時代になります。時代に取り残されないように常に考察を。

5 新規参入希望者に一言

一度きりの人生。自分の為に生きましょう！
～そして、自分の生産した作物で多くの人に喜んでもらいましょう～

人生の軌跡





プロフィール

- 出身地：福岡県
 - 就農時期：2010年1月
 - 就農前の職業等：児童館勤務
- 子供たちと関わる中で、農業をしたいと考えるようになりました。

1 就農の動機

花壇づくりや野菜作りの活動をするうちに農業の面白さに目覚め、就農して、もっと様々な作物を育ててみたいと思うようになりました。
幼いころ、祖母の畑で土いじりした楽しい思い出も影響したと思います。

2 就農準備

① 決意した時期・きっかけ・地域決定の理由

28歳で結婚。30歳代半ばで農業をしたい気持ちが強くなり、仕事を辞めて宮城県農業大学校（当時は宮城県農業実践大学校）に入学し、農業を基礎から学びました。当初、就農に反対だった夫からは、徐々に理解と応援を得ることができました。
就農地域については、自宅から通える場所であることが第一条件でした。

② 研修

農業大学校2年間の在学中にカリキュラムの一環として、仙台市若林区の農業法人で40日間の体験研修を受けました。また、同大学校のニューファーマーズカレッジ（NFC）を併行して受講し、研修がない土日には、知り合いに紹介された女性農家さんのお宅で、農業のお手伝いをさせてもらいながら、研鑽を積みました。

③ 資金・農地・住宅

研修の資金として、農業大学校の在学中に就農支援資金を2年間で120万円借用（卒業後1年以内に就農し、4年間継続すると1/3償還免除）しました。

農地は、在学中に見つからず、卒業後すぐには就農できませんでした。それでも「農業の近くにいたらチャンスがあるかも」と思い、NFCの研修を続けながら、農業機械オペレーターのアルバイトを行っていました。すると程なく、農業三昧の姿に就農への本気度が伝わったのか、周囲の方からの紹介で、農地を借りることができました。

住まいは、就農当初、仙台市から岩沼市の畑まで自動車通勤でしたが、一年経たずに畑の近くに引っ込みました。



3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- 栽培品目：露地、施設栽培で30種80品目
- 露地：40a（道路等介在の3箇所） ● 施設：ハウス2棟

② 主な保有施設・機械

- パイプハウス4棟（育苗用、資材置場×各1棟、栽培用×2棟） ● 軽トラック1台
- トラクター1台 ● 調整室兼事務所1棟 ● 仮設トイレ ● 管理機 ● 動力噴霧器 など

③ 労働力 本人のみ

④ 販売先

近隣スーパーの産直コーナーや地元の直売所での販売を主としています。
その他、飲食店やイベントで直接販売することもあります。

⑤ 特徴

落花生を茹でる、ライ麦を粉にする、ラベルを工夫するなど、生産物にひと手間かけて、消費者のニーズに合わせた販売を心掛けています。

4 就農を振り返って

※就農を決意してから今日までに4つの大きなピンチがありました※

1 研修の際に借りようとした就農支援資金が、なかなか借りられずに困った。

→ 農業大学校の先生方に就農計画書のご指導をいただきました。

2 就農した年、応援してくれていた夫が病気で亡くなり、途方にくれた。

→ NFCの仲間が手伝ってくれたため、どうにか持ちこたえることができました。

3 パイプハウス建築に投資したが、引き渡し直前に風で損壊。

→ 引き渡し前だったので、追加費用がかかりませんでした。

4 就農して6年目に借りていた農地の所有者から、急に返却を求められた。

→ 東日本大震災による圃場整備の計画が急浮上し、就農して6年目に農地の返却を求められ、7年目に移転。これまでの設備投資や土づくりが無駄になり、農地探しと予定外の移転費用などで大変でした。しかし、地域の直売所の方の紹介で、以前よりも広くて良い条件の畑を借りることができ、救われました。

4つの大きなピンチを乗り越えられたのは、周囲の支えがあったこそ！

まわりの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

5 新規参入希望者に一言

「農業は始めにくく、辞めがたい仕事」と聞いて、なるほどと思った事があります。

新規参入者の場合、資金を用意し、農業技術を身につけ、農地を探し、機械や施設に投資しなければならないのですから。また、就農できたとしてもすぐに利益が出るわけもなく、投資したモノを回収するのに長い時間がかかり、辞められない……。

でも本当にそうでしょうか？ 農業には、高いハードルを乗り越えてでも挑戦したくなる魅力……自身の努力や工夫を実現できるやりがい……があると私は思います。

実際に就農して10年目となりますが、毎年、新しいことにチャレンジすることを楽しみ、作物の出来に一喜一憂する毎日です。農業は、天候に左右され、困ることも多いですが、お客様からの「美味しかった！」を励みに前進あるのみです。

これから一緒に農業の達人を目指してみませんか？

人生の軌跡



自分の思いを口にすること、夢は叶う！



プロフィール

- 出身地：インド ニューデリー
- 就農時期：2013年（当時22歳）
- 就農前の職業等：
父の仕事により、中学生の時に家族で仙台市に移住。宮農高、宮城県農業大学校を卒業し、就農。
- 家族構成：本人、父、母、兄、義姉、犬

1 就農の動機

カレー店を営む父の影響で「料理人」になることが、子供の頃の夢でした。食材も作れたら楽しいだろうと考え、宮城県農業高等学校に進学。そこで、「作る大変さ・楽しさ」を知り、さらに農業の知識を深めたいと考え、宮城県農業大学校へ進学しました。

2 就農準備

① 決意した時期・きっかけ・地域決定の理由

「自分が栽培した野菜を使って、農家レストランを開く」……この夢を叶えるため、農業大学校を卒業後、すぐに農地を探しましたが、なかなか農地は見つかりませんでした。そんな時に頭に浮かんだことは、ホームステイ研修でお世話になった美里町でのたくさんの人との出会いでした。その美里町で、「農業をしたい！」と強く思い、家族に伝え、話し合った結果、家族全員で仙台市から美里町に移り住むことを決めました。移住してから、農地を探した珍しいケースだと思います。

② 研修

農業大学校在学中に出会った有機野菜に感動！卒業後、農地を探すのに時間がかかってしまったので、その間、色麻町で有機野菜栽培している農家さんの所で約1年間、お手伝いしながら勉強させてもらいました。

③ 資金・農地・住宅

住宅は、ネット情報から、農家の中古物件を見つけて、家族みんなで美里町に移住しました。すると引っ越してすぐに自宅近くの農業委員さんが、近所の農家さんたちに声を掛けて下さり、無事に農地75aを借りることができました。

また、普及センターからアドバイスがあり、就農計画を立てて県の認定を受けました。

資金は、経営開始時に就農施設等資金を借り入れ、機械やパイプハウス等を導入しました。そして、経営開始後は、農業次世代人材投資事業の経営開始型（旧青年就農給付金）の給付を受け、運転資金に活用しました。



3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積 ～30品目くらいの露地・施設野菜～

- 露地畑 1.5ha タマネギ、トマト、カボチャ、人参、ジャガイモ、大根、カブ 等
- 施設野菜 500㎡ ミニトマト、ナス、ピーマン、とうがらし、水菜、ルッコラ 等

② 主な保有施設・機械

- パイプハウス4棟 500㎡ ● 軽トラック ● トラクター ● 管理機 ● 掘取機 等

③ 労働力

本人、週3日パートさん1人+近所の農家さん

④ 販売先

飲食店5割、個人3割、直売1割、マルシェ1割
父と兄のレストラン（仙台市・大崎市）の他、個人宅配、直売やイベント等

⑤ 特徴

- * 農薬や化学肥料を使わない有機野菜を栽培。
- * 自信がないものは、外に出さない。自分が美味しいと思ったものだけを販売。

～ひよこ豆のレトルトカレーを販売～

ベジタリアンの海外旅行者に「美味しいものを食べた記憶」を持ち帰ってほしいと思ったことがきっかけで、レトルトの“ひよこ豆のカレー”を作りました。父や兄のアドバイスがあったからこそ、販売までこぎつけることができたと感じています。現在は、県外の業者に加工を委託していますが、今後の自らの加工も視野にいれて検討中です。



4 経営を開始しての感想

就農から5年が経ち、家族と農家さんのサポートのもと、楽しく農業を行っています。家族で引越してきたため、皆で協力しながら、地域の会合や行事に関わることが出来ました。お茶会など、小さなことでもコミュニケーションの手を抜かないことは大事。もし、ひとりで移住していたなら、難しかったと思います。

昨年までは、農業の今後を考えて、若い人に繁忙期の手伝いをお願いしてきました。

しかし、今年、タマネギの播種を地域の農家さんに手伝ってもらったところ、天候を見ながらの作業判断など、年配者ゆえの経験に大変助けられました。これもひとつの地元貢献と考えて、これからもお互いに協力して、地域を支えていきたいと思っています。

良い物を見合った価格で販売し、満足してもらいたいと対面販売にこだわって販売してきましたが、来年からは、知ってもらうことに重点をおいて、講演や料理教室に力を入れていきたいです。そして、小さい頃からの夢であるレストランへも繋げていきたいと考えています。

5 新規参入希望者に一言

皆さんも夢の実現に向けて、まわりの人に思いを伝えましょう！！

「農業をしたい」「私は料理が好き」など、自分の夢や思いを口にすることで夢は叶うと思います。それを聞いた周りの人たちからの情報提供や応援があって、私は、夢に近づくことができました。

人生の軌跡



はじまりは、生とうもろこしのまるかじり!



プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2006年（当時34歳）
- 就農前の職業等：海外ボランティア活動を経て、有機農業に出会う。その後、帰国し食品会社に勤務。
- 家族構成：本人、妻、子供二人

1 就農の動機

大学卒業後、海外でのNGO活動を通して、有機農業に出会いました。自分でまいたトウモロコシの成長を見ながら、稔ったときに畑でまるかじりした時の感動が、農業に関わりたと思ったきっかけです。

2 就農準備

インドネシアでNGO活動を1年、農業研修をアメリカで2年間行って、帰国。一度は、会社勤めをしたものの農業への想いが日に日に大きくなり、一念発起して就農を決意しました。

① 研修・地域決定理由

有機農業での独立を目指し、仙台市秋保の農業法人で2年間の研修を行い、研修先近くの農地の紹介を受けたため、秋保での就農を決めました。

就農した年の秋、子2頭を連れた親熊が畑に現れたことから「くまっこ農園」と命名



② 農地

借りた畑の道路条件は良好でしたが、遊休農地で柳や蔦が茂っていたため、自分で機械を使って開墾からのスタートでした。カラス、熊、サル、イノシシがよく出るところで、1年目は猿により、全滅しました。

現在は、電柵とワイヤーメッシュの組み合わせで防御しています。

③ 資金・住宅

資金は、研修期間に就農支援資金(月12万円)を活用。また、就農時に親から200万円借金して、初期投資と1年目の生活費にあてました。

住宅は今も通勤農業。農地と自宅(仙台市内)の間が農産物の納品、配達先なので都合がよく苦になりません。

通勤農業であっても地域のつきあいは大切で、あいさつと世間話は欠かさないようにしています。



イノシシ被害

3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- 栽培品目：多品目の有機野菜
- 露地畑：140a
- 施設野菜：450㎡

② 主な保有施設・機械

- パイプハウス 3棟 450㎡
- 軽トラック 1台
- トラクター 1台
- 管理機 3台

③ 労働力

本人、雇用1名（+研修生1名受け入れの場合有り）

④ 販売先

宅配（5割）+有機専門店（3割）+直売所（2割）
一般家庭70戸、無農薬野菜専門店や自然食品店
JA仙台直売所たなばたけ、生協



⑤ 特徴

農薬や化学肥料を一切使わずに栽培しています。最初に国際協力で訪れたインドネシアには、トラクターや農薬がなかったため、現地にあるものだけで農業を行わざるを得なかったこと、また、自分が食べて美味しいと思ったことから、自然と有機農業になりました。

始めた頃から、多品目栽培（現在は80品目位）のため、機械化はできません。現在、雇用1名、研修生1名の3人で作業していますが、草取りにかかる労力は大きいです。

ひとりなら1haできるかどうか……仕事としては、50a以上が必要です。

販売は、会員への宅配が半分を占めていて、8~11品のおまかせセットで販売しています。年間絶やさずに多品目を作って届けることは、大変ですがやりがいがあります。

有機農業を始めるにあたり、志が大切と考え、「健康」「環境」「つながり」を大切にしたい農業を目指しています。~「秋保ゆうきの会」活動会員7名~

4 経営を開始しての感想

忙しさも楽しんでいます！

忙しくて仕事だけの日々ですが、好きな仕事なので充実しています。就農時から、鳥獣対策に日々、悪戦苦闘！これをさぼると全滅もあり。作る人と食べる人の良い関係をつくり、心身共に健康生活を応援しています。

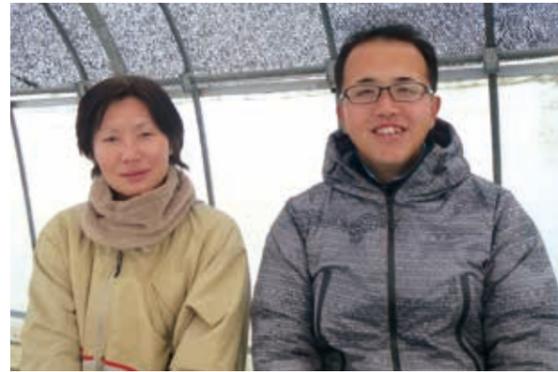
5 新規参入希望者に一言

のんびり田舎暮らし……スローライフ……では食べていけません！サラリーマンの2倍働く位の覚悟で農業に入って来てください。

また、いかに地域に溶け込めるかが重要です。地域に認められることが、良い就農につながります。

人生の軌跡





鈴木氏 佐藤氏

プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2014年5月（当時31歳）
- 就農前の職業等：リハビリ職（言語聴覚士）

1 就農の動機

20代の頃、立て続けに交通事故に遭い、後遺症に悩まされ続け、その時に野菜作りを始めたことがきっかけで、社会復帰できました。リハビリの仕事をしていた時、社会的に孤立した障がい者の人たちと出会って、自身の経験とも重なり、「いつか農業を通して障がい者の支援をしたい。」と思うようになりました。

2 就農準備

① 決意したきっかけ

東日本大震災の大津波で自宅を全て流され、ゼロからのスタートになった時、「人生は一度きり。やりたいことをやろう。」と就農を決意。

生まれ育った地元が壊滅的な被害を受けたため、地元で農業を始めて、にぎやかな場所にしたいと考えました。



② 研修から就農

独立前は、週末農業で実家の隣の農地15a程を借りて、野菜を作っていました。独立就農に必要な知識や技術を身につけ、自身の目指していることを達成するために宮城大学の大学院で学ぶことを選択。約2年かけ、新規就農するための準備を行い、2014年に宮城県仙台市と大崎市で新規就農しました。

③ 農地・資金・経営

農地は、地元の人から紹介してもらい、借り受けることができました。この賃借した農地で2015年から作付けを始めましたが、津波被害による塩害や潮害のため、数年間は厳しい経営となることを覚悟していました。土壌回復工事や圃場整備工事が一段落した2017年から本格的に農業ができるようになりました。資金は、自己資金と農業次世代人材投資資金・経営開始型（旧青年就農給付金）を利用しました。就農の初期費用に加え、農地の塩害もあり、数年の赤字を見通しての就農だったため、この制度がなければ、今はなかったと思います。そして、就農4年目の2017年に鈴木氏と出会い、農業法人を設立しました。

*** 役員である鈴木氏は、自身の就農経緯について ***

- 以前より、美味しい野菜を自分で作って食べたいと栽培を行っていた。
- 野菜直売で佐藤氏と知り合い、農業を始める佐藤氏を応援したいと思った。
- 印刷関係に勤めてきた経験で名刺やチラシ作りなど、農家さんを応援。
- 自分の手で育てた新鮮な野菜を直接、消費者に届けたい！ ことを挙げています。

3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- 露地畑：大崎市、仙台市を合わせて150a
- 栽培品目：野菜全般 約50～60種類

② 主な保有施設・機械

- ハウス3棟…風被害を防ぐため、補強パイプを入れています。
- トラクター1台 ● 管理機2台 ● 軽トラック2台 ● 耕運機2台
- モア2台

③ 労働力

役員2名、アルバイト（臨時）3名、障がい者4名程度（施設外就労）

④ 販売先

メインは、卸売業者で、持ち運んだものを全量買い取ってもらっています。他は、スーパーと直接販売（インターネット通販、イベント出店、マルシェ等）。

⑤ 特徴

畑から元気を届ける！

- 無農薬 誰もが安心して食べられて、野菜本来の味がしっかり味わえる野菜になるよう、栽培期間中には化学農薬を使用せずに栽培を行っています。
- 土・堆肥 オリジナルの堆肥やミネラルを含んだ土壌改良材を使用し、牛や豚や鳥などの堆肥は極力使用せずに、最低限の堆肥と緑肥で土を育てています。
- 栽培管理 栽培時には、自分達で培養をした納豆菌や乳酸菌などの微生物資材を使用して、野菜が健康に育つよう注意を払いながら栽培しています。

ソーシャルファームを目指しています ~働きたいという障がいのある方の就労支援~

就農の翌年からは地元のNPOと連携して、高次脳機能障害という障がいのある方々と一緒に農作業を開始しています。

農園では、農作業を通して障がいのある方にいきがいややりがいを感じてもらうだけでなく、障がいのある方と健常者とが交流できるイベントにも取り組み始めました。

4 新規参入希望者に一言

農業を始めるということは「起業するということ」。
起業するということは「経営者になる」ということです。

栽培の管理だけでなく、経営のことも独立する前から学び、自身のビジョンや経営戦略を考えると良いかもしれません。

人生の軌跡





中山氏ご夫妻

プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2012年（当時30歳）
- 就農前の職業等：大学を卒業後、WEB制作会社、印刷会社を経て農業を志す。
- 家族構成：本人と妻
ウサギ、犬、ヤギ計5匹

1 就農の動機

サラリーマン時代はWEB制作でも印刷でも、顧客の「自分の商品」をPRするために仕事をしていましたが、自分も「自分の商品」を売って、家族と自分自身のために生活したいと考えました。

周りには「悪い仕事ではないが、一生やる仕事でもない」と言う人が多く、では一生やる仕事は何かと考えました。父の実家の農業の様子が思い浮かび「農家は定年もなく一生出来る」と就農を決意しました。

2 就農準備

就農するまでもしてから色々なハードルがあります。一番の味方になる家族の同意すら受けられないのであれば、諦めた方が良くと思います。自分はまず妻に、そして両家の両親兄弟たちにプレゼンを行い理解を求めました。

① 地域決定理由

大消費地である仙台市に近く交通の便が良いことと、研修を受けた農家が村田町だったため。

研修先と就農地は同じか近隣市町村がベスト。里山の雰囲気が残る環境も気に入っています。

② 研修

いろいろ見学した後に、農業見学のバスツアー「みやぎ農業見聞のつどい」に参加し、そこで見学した村田町の農家に依頼し、研修を受けました。

自分がやりたいと思う経営を行っている人に依頼するのが基本です。

③ 資金～お金は節約

自己資金300万円に加えて、研修期間・営農開始時に借入350万円。自己資金は生活費で最低300万円は必須です。借入金は設備投資や借家のリフォームに充当。

できるだけ新品は購入せず中古の機械や資材を探しました。

④ 農地・住宅～地域への浸透・誠意

農地を借りられるのは「農家」か「認定新規就農者」のみ。認定を受けるには、市町村に「就農計画」を提出し、認められなければいけません。少量多品目栽培のため、あまり前例がなく、この収支や収量の見込みの作成に一番苦労しました。

農地探しは町の協力をいただき、農業委員の皆さんに自己紹介資料を配付して協力を依頼。土地と住宅の情報を得て借り受けました。その後、平成30年に宅地および隣接する農地を購入しました。



3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- 露地畑：150a
- 栽培品目：野菜 100品目超

② 主な保有施設・機械

- 育苗ハウス 1棟
- トラクター 2台
- 軽トラック 2台
- 管理機 2台 他

③ 労働力

本人+妻（出荷補助）

④ 販売先

直売80%、他20%

⑤ 特徴

- 無農薬・無化学肥料
- 固定種・在来種重視
- 少量多品目



できるだけ雑草を活かし、古い品種を使って野菜の青臭さや濃い味が出せるような栽培を心がけています。

4 経営を開始しての感想

仲間や地域の人との交流を大切に！

- ① 人の都合で働かず、作物と天気の都合で働くので、社内の人間関係で悩む、というようなことはありません。ただし客先や地域の方との接触が非常に多く、サラリーマンより人間関係そのものは濃厚。結局のところ、煩わしい人間関係は嫌！という人には向きません。
- ② 野菜の生理（生育適温など）や病害虫の勉強が足りずに就農してしまったことは反省！
- ③ 就農当時は分からないことだらけ。こんな時、仲間や先輩の声は心強いもの。同じ農家の仲間との交流や、就農前から加入している「せんだい食農交流ネットワーク」での活動が、農業へのモチベーション維持に役立ちました。色々な人と継続的に交流を持ちましょう。

5 新規参入希望者へのアドバイス

販路探しと自己PRは独立前から取り組もう！

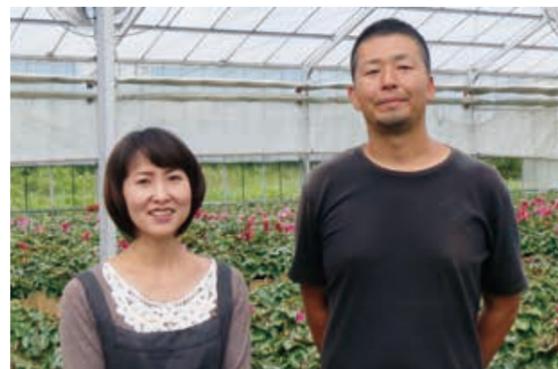
研修に入る前から「名刺」を持ち歩き、会う人に配って情報を集めました。機会があれば先輩農業者の「失敗事例」を聞くことが非常に大事。成功事例は腐るほどありますが、公開されている失敗事例は少ないのです。

また、間違った先入観に注意！「農家なら面倒な人付き合いなし」「大自然の中で働きたい」「晴耕雨読、スローライフ」……とんでもない誤解です。就農前の社会人経験は、できれば3年以上勤め、自分の“売り”を得ておくその後で必ず役に立ちます。

人生の軌跡



全滅の危機を乗り越え、「楽しい」毎日です。



亀山氏ご夫妻

プロフィール

- 出身地：茨城県
- 就農時期：2006年（当時29歳）
- 就農前の職業等：
大学卒業後、建設会社に施工管理技士として4年間勤務。
- 家族構成：本人、妻、子供二人、両親

1 就農の動機

茨城県日立市で育ち、大学では、農業土木を専攻。卒業後は建設会社に勤務しました。しかし、転勤が多く、夜も遅い毎日であったため、両親の実家のある宮城県での就農を決意しました。

2 就農準備

① 決意した時期・きっかけ・地域決定の理由

就農にあたっては、石巻農業改良普及センターに相談。石巻管内の生産状況や農家を見学し、涌谷町の花き農家である手嶋一郎氏のもとで研修を行うことを決めました。

② 研修

研修中の1年半は、肥料の量や水の管理など、しつこい位に聞いたり、研修先と同じものを自宅に持ち帰って、生育を記録するなどの他、参考書などで情報収集に努めました。独立後を考えて労力と作業のシミュレーションには、前職の経験が活かされ、この時の資料が現在も経営のテキストとなっています。

県外に研修先を求める人もいますが、自宅から近い研修先には、今もわからないことがある度に相談していて、自分にとっては、師匠が近くにいることが、とても良かったです。



③ 資金・農地・住宅

2006年に独立就農。母方の祖父の水田20aを借り受け、埋立整地の後、中古の鉄骨ハウスを解体・移設しました。他に暖房機や資材購入費として、借り入れた就農支援資金約1,000万円は、12年目の今年で完済。就農と同じ年に結婚。2011年に家を新築し、現在は、妻子・両親と同居しています。

3 現在の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

主な作目：鉢花（シクラメン他）
栽培面積：鉄骨ハウス：10a、パイプハウス：5a、露地畑：5a

② 主な保有施設・機械

施設：鉄骨ハウス1棟、パイプハウス3棟
機械：トラック1台、土壤消毒機1台、防除機1台

③ 労働力

当初は、両親に手伝ってもらいましたが、その後は、妻と二人で作業を行ってきました。妻の労働力は重要であり、大変助けられています。規模からくる今後の負担を考えて、2019年1月より一人雇用したところ、作業がずいぶん楽になりました。

④ 販売先

仙台・東京・埼玉・名古屋への市場出荷が9割。仲卸の担当者との直接やりとりで「亀山晴花園」の指定で前年に予約が入ります。

⑤ 特徴

- 2011年 全国シクラメン品評会最優秀賞受賞
- 2014年 東北鉢物生産組合品評会最優秀賞受賞
- 2018年 東北鉢物生産組合品評会金賞 他受賞多数

シクラメンを中心にクリスマスローズやラベンダー、あじさい等を施設と露地で栽培しています。シクラメンは、ジベレリンなどのホルモン剤を使用せずに栽培することで、花が順番に咲き、長く楽しめます。作り手の差……株のしまりや発色の良さ……が出るのは、スタンダードな品種であり、やりがいでもあります。



2014年
最優秀賞
受賞

東北鉢物生産組合品評会

4 就農を振り返って

品評会で賞をいただき、気を良くして栽培に励んでいた2015年に事件が起きました。この年、土の値上がりで仕入れ先を変えたところ、根こぶ線虫にやられ、シクラメンが全滅。

全滅のショックは大きく、農業をやめようかと頭を抱えましたが、300万円を借り入れてどうにかしのぎました。この危機では、師匠の手嶋さんをはじめ、他県を含めた栽培仲間の皆さんに大変お世話になりました。今後も感謝を忘れないようにしていきたいと思います。

この件があってから、土壤消毒機（新品なら300万→ネットで30万位）を購入し、使用する「土」の全てを蒸気消毒しています。これにより以前は、1割ほど病気で廃棄となっていたものが、現在は無くなりました。

やり始めたら走るしかなく、会社を辞めて就農したことを自問自答した時期もありましたが、振り返ってみると農家になって良かったと思います。「楽しい」と思える毎日です。

5 今後の展望

規模拡大は考えていませんが、売上げは伸ばせると考えており、法人化も検討したいです。

6 新規参入希望者に一言

自分なりのこだわりで、いろいろな事に挑戦できるので、面白い職業だと思います。
あなたも農業にチャレンジを！！

人生の軌跡



お客様の「美味しい」がやりがいになっています。



プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2017年3月（就農時 20歳）
- 就農前の職業等：学生
宮城県農業高等学校～宮城県農業大学校

1 就農の動機

中学2年の時に東日本大震災を経験し、隣の農家さんからいただいた野菜を見て「農業はすごい」と思いました。幼少期から、生き物、土いじりが好きだったので将来は、農業を職業として行いたいと考えて、就農を決意しました。

2 就農までの経緯

① 決意した時期・就農先との出会い

東日本大震災を経験したことから、就農したいと思いましたが、非農家出身であったため、まずは宮城県農業高等学校に入学して3年間学びました。しかし、自分には実践研修が不足していると考え、宮城県農業大学校に進学。就農の意志が固まった2年次には、農業次世代人材投資事業（準備型）の助成を受けました。そして、体験プログラムでお世話になったご縁でマルセンファームに就職し、現在に至っています。



② 就農前の農業体験や研修

農業大学校2年次にインターンシップとして33日間、マルセンファームで先進農業体験をさせていただきました。

③ 就職先決定の理由

マルセンファームのトマトに惚れました。こんなにも美味しいトマトが栽培できるのかと驚き、その味と社長の人柄に惹かれ、ここで学んでみたいと強く思いました。現在、仙台の自宅からの車通勤で、片道1時間弱かかりますが、その時間も自分の趣味を考えて楽しんでいます。

3 会社の経営概要と特徴

① 主な作目と栽培面積

- トマト 1.5ha（大玉 70a、中玉 80a）
- 菊（鑑賞用） 1ha ● ほうれん草 40a
- 菊（育苗用） 10a
- 水稲 自作地、作業受託合わせて 33ha 他

② 主な保有施設・機械・栽培の特徴

- 土耕栽培用鉄骨ハウス 6棟 計 3ha
- 出荷作業棟、電照設備、栽培・調整関連機械一式

平成30年度全国優良経営体表彰
生産技術革新部門農林水産大臣賞受賞

施設内設置の環境制御モニターで温度、湿度、土壌水分等を監視。病害虫発生低減、二酸化炭素の施用による光合成の促進、そして、得られた糖類の転流で果実を充実させて2014年～2017年の3年で収量が3割向上！

③ 法人設立 平成16年9月

④ 従業員数

社員8名、パート21名、海外実習生8名

⑤ 主な販売先 **それぞれの生産物に有利な販売先を選択**

- トマト：直売（会社店頭・飲食店舗・道の駅やJA）、ネットでのギフト販売
- ほうれん草：市場出荷
- 米：農協
- 菊：直売所（市場は2割位）
- ジュース：店舗とネットで半々

⑥ 年間販売額

【H29年度売上】2億4,900万円

⑦ 会社の特徴と求める人材

- お客様の笑顔を求め、「土を使って美味しいもの作ろう」と日々、取り組んでいます。
- JGAPの認証を受け、従業員の生産管理体制の高度化を進めています。

10人いれば10人のアイデアがある。それを取り入れて、伸ばす会社でありたい
トップダウンではなく、自らが考え、企画提案できる人を求めています。



千葉代表取締役

4 就農しての感想

トマトの栽培は達成感があり、お客様の「美味しい！」がやりがいになっています。2年目の今年から菊部門に異動しました。これもひとつのチャンスと捉え、リーダーとして、パートさんの管理を含め、仕事に集中できる環境を整えることも役割と考えています。

正直に言うと農業の世界は厳しいです。でも、そこで学んでいくことが自分にとってプラスになるし、何より楽しいです。

また、会社は、新米の自分の意見にも耳を傾けてくれるので、考えたこと、感じたことを伝えるようにしています。将来は、このマルセンファームで農場長として活躍できるよう、頑張っていきたいと思っています。

社長からの一言

失敗は付きもの。失敗してもなぜ失敗したかを分析し、次の計画・ステップにつなげて、結果を出すことが大事です。

「楽しんで仕事しろ！」と話します……これは、どうすれば「楽」できるかを考えること。

例えば、変化や気づきなど観察力を高める、技術を身につける、それを自信として得意分野を伸ばす等。そして、会社の核として成長するよう期待しています。

5 新規参入希望者に一言

厳しい世界ですが、その中に楽しいこと、学べるがたくさんあるので、お互い頑張ってください！

人生の軌跡





プロフィール

- 出身地：宮城県栗原市
- 就農時期：2018年4月(就農時20歳)
- 就農前の職業等：学生
商業高等学校(流通経済科)から
宮城県農業大学校園芸学部入学～卒業

1 就農の動機

幼い頃から農作業に関わり、自然と人の共存する農業に惚れ、農業を行うことを公言してきました。トマトやヒマワリなどを育てる面白さと、収穫し人に喜んでもらえることが、原点です。他の職種にも憧れはありましたが、たぶん、実家が兼業農家であり、まわりの環境や見てきた風景が「農業」だったことが影響していると思います。

2 就農までの経緯

① 決意した時期・就農先との出会い

農業大学校で、毎日、勉強していくうちに農業しか考えられなくなりました。2年時の就農セミナーで、iファームの三浦代表と出会い、それから、夏休みと冬休みのアルバイトなどを行う中で、iファームに就農することを決めました。また、農業大学校の2年次には、「農業をする」という気持ちが固まっていたので、農業次世代人材投資事業(準備型)の助成を受けました。

② 就農前の農業体験や研修

アルバイトをする中で、仕事とは何かを学ぶことができました。ミスや失敗があったからこそ、「逃げないで農業をやる」の気持ちが強くなりました。

③ 就職先決定の理由

農業をやる以上、「上に立ちたい!」とずっと考えてきました。就農先を複数社から選択する際に自身の目標やビジョンが見えたのが、「iファーム」だったので、何をするか、何が出来るかは、はっきりと見えていませんでしたが、「iファーム」への就農を決めました。



3 会社の経営概要と特徴

「伊豆野農業生産組合」から発展し、平成26年「農事組合法人 iファーム」を設立し、志波姫伊豆野地区の担い手5名で法人経営をスタート。

地域の農業を守り、後継者に繋ぐことを目指しています。

～キャッチフレーズは～

「!俺ほの農地守り隊!」「私達は、わがふる里を i アイ してます」

① 主な作目と栽培面積

- 水稻：37ha(飼料米含)
- 大豆：23ha
- キャベツ：1ha

② 主な保有施設・機械

- トラクター2台
- コンバイン
- 大豆コンバイン
- ライスセンター
- 田植え機
- 直播用田植え機 等

③ 法人設立 平成26年12月11日

④ 従業員数

役員5名、従業員2名の7名

⑤ 主な販売先

- 米：JA・直売・業者
- 大豆：JA
- キャベツ：JA・直売

⑥ 会社の特徴

オペレーター型の法人であり、高齢化による後継者不足や農地の集約に対応することで、地域の農業を担っている。荒廃農地、耕作放棄地の未然防止、雇用の創出など、地域そして農業全体の将来につながるよう取り組んでいきたい。

規模拡大を想定しており、人材の増員を設備投資とともに検討している。



三浦代表理事

4 就農しての感想

現在、雇用1年目でとても楽しく仕事をしています。もちろん、失敗やミスで落ち込むこともありますが、そういう時こそ、「ここが踏ん張りどころ」と考えるようにしています。

水稻や大豆、野菜の栽培に従事するかたわら、作物ごとの品種特性を勉強したり、栽培管理の技術修得にも励んでいて、2年目の今年からは、大型機械の操作も行います。

4Hクラブなど若手農業者の集まりにも積極的に参加するなど、地域を支えていくことも大切な役目と考えています。

夢は、経営品目として桃やぶどうなどの果樹を導入することです。また、いずれは実家のある築館地区の農業を担うことも考えていきたいです。

代表理事からの一言

栽培品目のアイデアや導入してみたい物は、企画書を作成するなどして、提案してほしい。内容がよければ会社として、取り入れて行く。

今後、会社のみならず、地域の農業を支える牽引役になることを期待している。

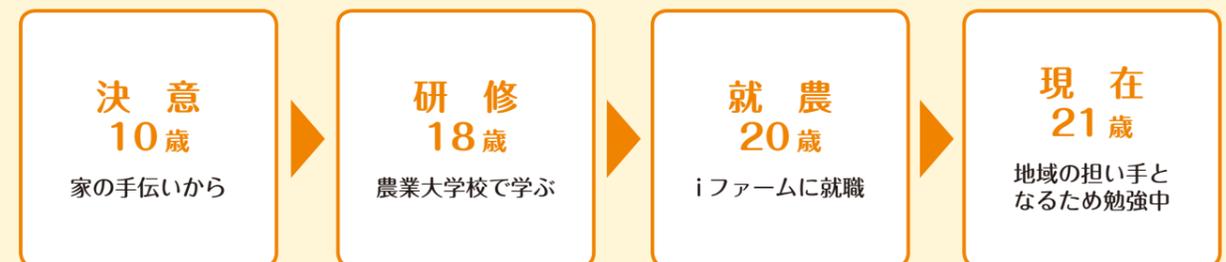
これからも夢を持ち続けて、その夢を叶えるために邁進してほしい。

5 新規参入希望者に一言

小さい頃から、「農業をやりたい」と公言!

これは、農業が好きだったことと自身の意思を固めるためだったように思います。「ぶれない夢はかなう!」の信念のもと、会社を背負って、地域の担い手となるよう、夢を公言し実現させたいと思います。皆さんもやりたいことをやってみてください。

人生の軌跡





プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2018年6月(就農時37歳)
- 就農前の職業等：会社員
鉄鋼メーカーにて営業や購買

1 就農の動機

東京の一般企業に10年以上勤めていましたが、地元へのUターンと合わせて自分が心からやりたいことを仕事にしたいと思い、自然や生き物が好きだったことから農業に着目しました。就農に当たっては、会社経験を活かして組織で働くことを前提に、農業法人に入りたいと考えました。

2 就農までの経緯

① 決意した時期・就農先との出会い

就農を考え始めて間もなく、仙台で農業人フェアがあり、登米市の農業法人との出会いがありました。そこで自分は農業に進むと決意、3ヶ月後には会社を退職しました。登米市に引っ越して1年間の予定で研修を開始しましたが、半年を過ぎた頃に父の病気もあって仙台に戻ることにし、研修先を仙台の舞台ファームに変更しました。

② 就農前の農業体験や研修

農業経験はまったくありませんでしたが、農業次世代人材投資事業の準備型の助成を受けて、登米市の農業法人で栽培など生産部門での研修を7ヶ月ほど受けました。

研修先を舞台ファームに変更してからは栽培だけでなく、6次産業化の先進事例として大手コンビニ向けのカット野菜工場運営や、3次産業者大手と連携した大規模精米工場の取組み、被災地浪江町の復興に向けた農業コンサルティングなど、幅広く学ぶ機会に恵まれました。

③ 就職先決定の理由

研修を続ける中で日本農業の厳しい現状を知るにつれて、せっかく夢を抱いて入ったこの農業の世界を、他業種に負けない強い産業にしたいとの思いが高まりました。初めて舞台ファームの役員の方と面談した際の圧倒的な情熱と、研修中にも何度も思いを共有したことから、自分の志向するものと一緒だと感じました。合わせて会社員時代のスキルを活かせる仕事もあり、ここなら活躍の場があると考え、入社を決めました。

3 会社の経営概要と特徴

① 設立

2003年7月11日(有)舞台ファーム設立
2004年8月20日(株)舞台ファーム設立

② 売上高

2018年6月期：24.7億円(グループ全体38.9億)

③ 資本金

5,000万円

④ 従業員

38名(グループ全体約200名)



⑤ 業務内容

- 野菜：生産・販売、グループ会社にて水耕栽培(G-GAP認証取得)
- お米：生産・販売(玄米、胚芽米、白米、無洗米)
- 農産物加工・販売(カット野菜工場)
- 農業経営コンサルティング(グリーンカラー人材育成、被災地の復興支援)

⑥ 関連会社

(株)みちさき：水耕栽培(トマト、葉物類)
(株)旬の風：宅配寿司「銀のさら」店舗運営、アグリコンサル事業
e-フレッシュ(株)：カット野菜、業務用野菜
(一社)ステージパス：障がい者就労継続支援
舞台アグリイノベーション(株)：精米事業、玄米流通

⑦ 販売連携先

〈野菜〉大手コンビニ、大手スーパー 〈お米〉アイリスグループ

⑧ 求める人材

農業をビジネスとして極めたい情熱のある人を求めています！

農業ほど多岐に渡って勉強が必要な職業は、他にないかもしれません。植物生理や肥料・農業の化学知識、気象学等の栽培に関連する知識だけでなく、経営におけるマーケティング・営業や経理等の数値管理、そして世の中の情勢を踏まえた幅広い知識・見識が求められます。

舞台ファームでは農業と経営の両方が出来る人材＝「グリーンカラー人材」を育成する仕組みがあり、将来独立を目指し、当社で働きながら勉強したい方を後押ししています。もちろん当社の各部門(農場、工場、営業、企画、物流、総務)で、自分のやりたいことや得意分野を活かして働きたい人にも活躍の場があります。いい意味で“儲かる”農業を目指したい方は、是非一度当社を見ていただきたいと思います。

4 就農しての感想

今は農業コンサルとお米の仕入れをメインに担当しています。いずれも単に取引をして終わりではありません。例えば農業コンサルで支援した集落営農組織からは、支援終了後も継続的に野菜やお米を仕入れることで農家を買支えることができ、仕入れた農産物はカット野菜等の製品に加工し、お客様に安定供給しています。お客様、契約農家、地域、当社従業員の全てが良くなることに、この仕事の大きな社会的意義を感じています。

5 新規参入希望者に一言

何でも積極的に学ぶ姿勢を持って、チャレンジして下さい。

普段の生活でもあらゆる事を勉強の機会と捉えることで、農業にも必ず生きてきます。無駄なことは何ひとつありません。臆せず、まずはやってみてください。

人生の軌跡



新規就農相談の窓口

* 就農する地域が決まっていない方

1 公益社団法人みやぎ農業振興公社	仙台市青葉区堤通雨宮町 4-17 (宮城県仙台合同庁舎内)	022-275-9192
2 宮城県農政部農業振興課	仙台市青葉区本町三丁目 8-1	022-211-2836
3 一般社団法人宮城県農業会議	仙台市青葉区堤通雨宮町 4-17 (宮城県仙台合同庁舎内)	022-275-9164

* 就農する地域が決まっている方

4 大河原農業改良普及センター	柴田郡大河原町字南 129-1 (宮城県大河原合同庁舎内)	0224-53-3519
5 亘理農業改良普及センター	亘理郡亘理町逢隈中泉字本木 9	0223-34-1141
6 仙台農業改良普及センター	仙台市青葉区堤通雨宮町 4-17 (宮城県仙台合同庁舎内)	022-275-8320
7 大崎農業改良普及センター	大崎市古川旭四丁目 1-1 (宮城県大崎合同庁舎内)	0229-91-0727
8 美里農業改良普及センター	遠田郡美里町北浦字笹館 5	0229-32-3115
9 栗原農業改良普及センター	栗原市築館藤木 5-1 (宮城県栗原合同庁舎内)	0228-22-9404
10 登米農業改良普及センター	登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5 (宮城県登米合同庁舎内)	0220-22-8603
11 石巻農業改良普及センター	石巻市あゆみ野五丁目 7 番地 (宮城県石巻合同庁舎内)	0225-95-7612
12 気仙沼農業改良普及センター	気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6 (宮城県気仙沼合同庁舎内)	0226-25-8068

* 農業について学びたい方

13 宮城県農業大学校	名取市高館川上字東金剛寺 1	022-383-8138
-------------	----------------	--------------

みやぎ就農ナビを
ぜひご利用ください!

宮城県の就農情報をワンストップで
ナビゲートするウェブサービスです。

みやぎ就農ナビ

検索

URL <https://www.enjoy-farm.com/miyagi/>